

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社 RAIMU (民間営利法人)		
事業所名	グループホーム来夢	ユニット名	
所在地	長崎県 佐世保市 日野町738番地		
自己評価作成日	2020年2月1日	評価結果市町村受理日	2020年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年2月14日	評価確定日	2020年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「らしく 生きよう 無限に」を念頭に、入居者様一人ひとりが自分らしく生活していただけるように支援を行っております。今何を思っているのか、考えているのか、日頃の触れ合いを生かし、対応を心掛けております。現在、日勤帯の人員不足ではありますが、それを思わせぬような入居者への対応・職員との連携を図っております。このホームでは小型犬一匹も飼っており、入居者様の癒しとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム来夢”は佐世保市日野町にある。2003年10月に開設以来、社長は入居者の方々や地域の中で自分らしく生活できることを大切に運営を続けてこられた。地域密着を大切に、子ども達や地域住民、民生委員、各関係者の方々やネットワークを繋ぎ、社長自ら多々の役職を担うと共に、「認知症ケア」「地域支援」の実践を続けている。2019年9月から新管理者(ホーム長)になり、社長と共に更なる業務改善に取り組みされてこられた。夜勤の時間帯の要望を職員に確認し、勤務シフトの見直しを行ったり、日々の記録の在り方の検討も行われている。看護師も勤務しており、既存のマニュアルの見直しを行う予定にしている。日々の生活では、入居者の方々は体操や歌、洗濯物たたみ等をされており、管理者等の運転でドライブなども楽しませられている。今後も入居者個々の「有する能力(ADL・IADL)」「できそうなこと」「日々の成果」「要望」等を丁寧に記録すると共に、職員全員でケアプランの評価や見直し内容の検討を行っていく予定である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、スタッフ一丸となり入居者・家族への配慮に心掛けている。	2019年から新体制になり、社長、新管理者、職員と共に業務改善を続けている。社長が命名された「来夢」というホーム名を元に、開設時の職員が理念を考え、今に至っている。「その人らしく」の中に「地域の中で」という意味も込められ、小学生や地域の方との交流を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	関わり合いが少なく、次に繋ぐことが出来ずにいる。	社長が日野小学校の命を守る体験(高齢者の疑似体験)の講師を務めている。疑似体験の装具等を社協から借り、子ども達に実際の体験をして頂いている。隣町の特別支援学級の子ども達も含め、生徒の方々はホームに来て下さり、クイズや歌を楽しまれている。	現在は主に、社長が町内会のごみ清掃や地域行事に参加している。今後は、職員も一緒に地域活動や小学校の通学路で行われる“あいさつ運動”等の参加方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌やホームページにて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの状況を伝えている。現在も地域に参加するような行事等はないが、積極的に参加していきたい。	入居者の状況報告や外出行事、研修報告等と共に、感染や災害対策の情報交換をしている。家族、市や包括の方々、民生委員、他施設も参加して下さり、ホームの取り組みを理解して頂き、猪や猿の出現情報も共有している。年2回は系列の地域密着デイも一緒に開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自身がわからないこと・迷うことがあれば市職員に相談するよう心掛けている。	地域支援の取り組みを強化しており、市との連携を続けている。地域包括の職員からも入居の紹介があり、情報交換を続けている。社長は認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議に参加し、アドバイスをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯も兼ねて夜間の玄関施錠は行っている。勉強会を通しケアの改善実践をしている。	社長が佐世保市の虐待防止委員である。法人内でも身体拘束(虐待)の内部研修や委員会活動も継続し、外部講師(保健師)による講義も予定されている。不適切ケアの有無を確認すると共に、職員の言動で気になる時は会議で共有し、職員個々が振り返るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・勉強会にて、内容把握に努めている。しない・見過ごさないを徹底し、ケアに携わる際は皮膚観察・コミュニケーションにて情報収集を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前にあった例を題材に、制度の説明・進捗状況説明を行い、学んで頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、ご家族に十分な説明と書類を郵送し、不安なく入居をして頂けるようにしている。入居や退去を急かすことなく、相手のペースに合わせている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の声を職員や家族に伝え、機会を得られるように努めている。面会時の家族との交流時にも耳を傾けている。	管理者や職員が、面会時や電話で家族に近況報告している。体調変化時などは密に情報交換し、家族の不安や要望を伺うように努めている。今後は以前行っていた通信を再開し、日頃の暮らしぶり等を報告していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりとの会話時間を設け、意見を聞き入れている。様々な場面で反映できていると感じている。	社長との面談の機会を設けている。日々の業務では管理者が職員の体調や要望を理解し、勤務シフトに活かすと共に、調理や外出等の現状に応じてシルバー人材の派遣に繋げるなど、業務改善を続けている。今後も各種記録物やマニュアルの見直しを行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	女性活躍応援宣言事業所の登録済み。働き方改革を導入し、有給休暇やシフト調整等協力的に行い、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの教育システムを導入・実践。及び、法人勉強会の質の改善。極力社外研修会参加に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の参加や各種勉強会への参加を促し、なるべく交流を図っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細な事でもこちらから話しかけたり、交流を図っている。相手の要望に応えられるように努力し、話し合っている。その内容は全スタッフと情報共有し、確立したサービス提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時の挨拶・配慮の徹底。誠実・機敏にできるように心掛けている。不安や心配事等は必ず経過、結果報告を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事故・怪我が無いよう安心して頂けるような実績作りに努めている。また、あやふやな対応にならないよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限りできることを、出来る時に一緒に行うようにしている。その時は、選ぶ選択肢の提供、自己選択・自立した生活が営めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共通認識を持てるよう、面会時の交流を活用して関係作りに努めている。あまり面会に来られない方に対しては、電話にて情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は、居室・フロアにて周りを気にせず、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	日々の会話の中で家族構成や生活歴などを把握し、記録している。馴染みの場所をドライブしたり、書ける範囲で年賀状を書いて頂き、家族に郵送している。携帯電話で家族とお話をされる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が深まるよう、スタッフも間に入り支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き、退所になられる方に関し、電話で状況をお尋ねしている。ご家族は退所後も来夢の入所を望まれる方が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の触れ合いや会話の中で、希望や意向の把握に努めている。本人のペースで自立できるよう、無理強いのないよう支援に努めている。	入居者の真の願いを引き出せるように努めている。「モスバーガーを食べたい」「ご主人の誕生日にプレゼントを買いたい」等の願いを叶えるように努めている。意思疎通が難しい方もおられ、表情や言動を丁寧に確認しながら日々のケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況把握をご家族に協力して頂いたり、入居後の生活状況や稀な行動の把握に努め、全職員と情報共有・受容に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも職員内で情報共有・現状把握に努めている。気になる点は主治医や訪問NSに指示を仰ぎ、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員のケアの考え・支援等の誤差が生じることはあるが、会議やカンファレンスを通じて意見交流を行い、統一したケアが行えるように努めている。また、日頃の気付き等は記録や申し送り確認しあえるように実践している。	日常生活全般を評価し、計画を作成している。生活の中で役割を発揮して頂けるよう、「お盆拭き」「茶碗拭き」「洗濯物干し」「洗濯物たたみ」等、ご自分でできる事をして頂いている。24時間全般のケア内容を盛り込み、「できそうなこと」を検討し、個別の目標も記入している。	今後は更に、職員全員で記録用紙の在り方を見直す予定である。日々のモニタリング内容を職員間で共有すると共に、体調変化時などはカンファレンスで検討し、適宜ADL等の能力評価や計画の見直しを行う予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動だけでなく、状況が分かるように記入するよう伝えてはいるが、あまり反映されていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービスができるよう、日々指導している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、難しい。努力しなければならない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご利用者様ともご満足されており、他科受診をされる場合は、いくつかの病院から選択して頂いている。	往診(月2回)や訪問看護(毎週)を受けている。ホームの看護師に相談でき、24時間体制で協力医療機関と連携が取れる。受診介助は管理者が行い、体調の情報交換をしており、減薬に繋げることもできている。他の協力医との連携も図り、家族と受診結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる健康確認の際、近況報告を行っている。個別に助言(受診等)を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、早期退院を目指し、こまめに連絡を取り、連携を密に取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の病状が悪く、主治医より終末期との話があった時点で、ご家族にお話している。	契約時に方針(看取り体制はあるが、夜間は往診困難で病院搬送もあること)を説明すると共に、ご本人と家族等の意向を伺っている。「最期は病院で」と希望される方も多く、必要に応じて医師の指示の下で入院手続き等が行われる。28年度に看取りケアが行われ、家族も一緒にエンゼルケアが行われた。	長く勤務する職員も多く、緊急対応等の研修を受講されている。今後は更にホームの看護師も一緒に緊急時や終末期のマニュアルを見直し、少しでも安心して終末期ケアが行えるように努めていく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時用のファイルを作成しておりいつでも観覧できるようにしている。定期的訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練・避難訓練は定期的に行っている。しかし、地域住民との訓練は実施できていない。	ホームは1階にあり、年1回は入居者・消防署員・消防団と一緒に避難訓練が行われている。ハザードマップ上、地滑り危険区域であるが、補修工事は完了している。地域の避難場所も確認し、隣接する他事業所との協力関係もある。別の場所に非常食(食料等)やテント等を準備し、広域エリアで施設間の応援体制もできている。	防火管理者も変わり、今後も更に自然災害に関する避難計画と消防計画の見直しを行う予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	未だできていない。否定語が多く飛び交っている。職員同士、注意することが必要。	どんなに忙しくても、相手の気持ちになって行動するよう職員に伝えている。ご本人の意思決定を大切に、質問形式で声かけし、ご本人に選んで頂いている。今後も外部講師を招待し、更なる日々のケアや言動の振り返りを行う予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促す配慮はできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様優先の考えが劣っている職員が多く、指導し改善が必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿った髪型、洋服・下着を準備。選択ができない方は、ご家族の意向を聞き入れ、その人らしい身だしなみにできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が得意とする作業を職員とともにを行い、食事作りから後片付けまで実施できている。	朝食は宅配を利用し、昼と夜はシルバー人材の方々がお家で調理して下さっている。入居者も買い物や“もやしの根切り”、お盆拭き、茶わん洗い等と共に、ツワの皮むきもして下さり、干し柿作りも楽しまれている。食事の介助方法の内部研修も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が減少されている方には、嗜好品を取り入れ、ご家族と相談しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促し、仕上げ介助等を行いながら清潔を心掛けている。義歯の方は洗浄剤の利用もしている。必要に応じて歯科往診を利用し口腔ケアを行ってもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたいという行動の把握、時間帯の把握に努め、徐々に失禁回数が減っている。自立されている方には、時折声掛けし、促している。	2019年は「排泄(トイレ・おむつ)介助方法」の内部研修が行われた。排泄チェック表を付けており、必要時にトイレ誘導している。布の下着(パッド)を着用し、排泄が自立している方もおられ、リビングからトイレまで距離があり、リハビリの機会になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がある食材の選択や、水分摂取の促し、ヨーグルトなどの乳製品を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施できている。拒否される方はいない。	最低週3回入浴できるように入浴表が作られている。お風呂好きな方が多く、湯船に浸かり、職員と会話をされたり、入浴剤も毎回違うものを使用し、新緑の香り等を楽しまれている。シャワー浴を希望する方は足浴をしながら保温に努めており、できる範囲は洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族の写真や、ご自宅で使用されていたものがあり、その人らしい個室になっている。寝具もご家族が準備されたものを使用している。エアコンを使用し、適度な温度に調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるよう処方箋をまとめて取って見やすいようにしている。誤薬が無いようにWチェックの徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・買物支援、塗り絵や脳トレ表の提供し、個人個人で楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って外出支援はできている。しかしながら、全員での外出はめったにできないし、難しい。(人員不足)	2019年は「外出時の介護方法と計画の立て方」の内部研修も行われた。庭でお茶を楽しまれ、歌も聞かれており、近所のスーパーで商品を選んで頂いている。花見や外食(寿司、モスバーガー等)の要望を叶えたり、ピクニックで山の頂上まで行き、昼食をしたり、散歩を楽しまれた。今後も外出を増やしていく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持をしておきたい方は、ご家族同意のもと所持して頂いている。時折外の自販機へお連れしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	100円ショップでレターセットを購入し、出したい方にお渡ししている。年賀状などはご家族が準備されたものに一言記入して頂いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な空気の入替え、レースカーテンなどもすべて開けて、日光を取り入れるようにしている。	ホームは窓も多く、リビングは明るい。職員が持参した季節の花を飾り、季節の作品作りも楽しんでいる。温湿度に気を配り、加湿器の利用や洗濯物を干して加湿し、換気(3回/日)をしている。椅子等に座り続けられないように努めており、トイレ等への移動時よりハビリの機会にしている。今後は「100歳体操」も取り入れる予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	だれでも気軽に過ごせるようにソファを配置している。相席になった方とも仲良く話し、楽しく過ごされていることが多い。時折仮眠のために使用される方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご本人が安心につながる品物は何でも持ち込まれていいとお伝えしている。写真・寝具等が多い。	名札や赤いリボンを居室の入口に飾り、迷わず居室に戻れている。筆筒やソファ、手鏡、遺影等と共に、大好きな球団の人形を飾られている。居室のレイアウトを家族と一緒にされたり、ご自分で筆筒の整理整頓をされる方もおられ、部屋の明るさの希望も尊重している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室配置が複雑なので混乱されないように、トイレには表札をつけている。		